

# 特別史跡百濟寺跡の発掘調査概要



西北院の掘立柱建物検出状況(東から)



講堂近辺で出土した大型多尊博仏

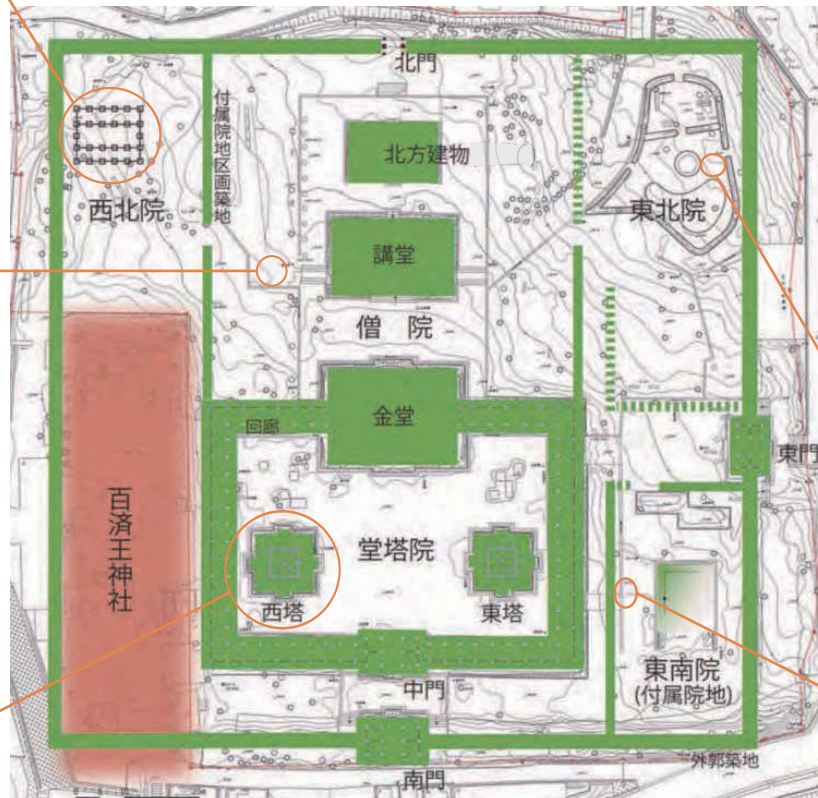


西塔検出状況(北から)

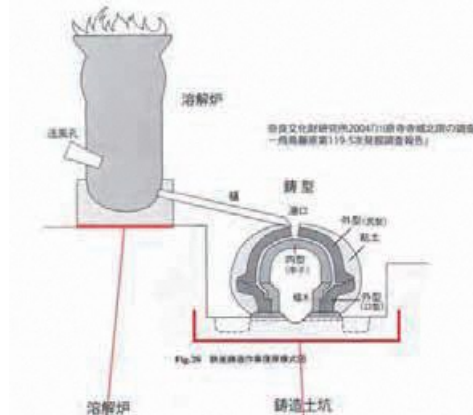
く<sup>く</sup>だら<sup>だら</sup>で<sup>で</sup>ら  
 特別史跡百濟寺跡では、平成17年度より9ヵ年かけて発掘調査を実施しました。  
 その結果、一辺約140mで四辺を囲む外郭築地の中に、主要堂塔の他にもいくつかの  
 建物が建ち、「付<sup>ふ</sup>属<sup>ぞく</sup>院<sup>いん</sup>地」と呼ばれる寺院を管理運営する施設が築地等で囲まれた区画に  
 分かれて配置されていたことがわかりました。

また、基<sup>き</sup>壇<sup>だん</sup>の外<sup>ぐわい</sup>装<sup>さう</sup>には壇<sup>だん</sup>正<sup>しょう</sup>積<sup>せき</sup>を採<sup>と</sup>るなど、当時の最新技術が駆<sup>くわ</sup>使<sup>し</sup>されて<sup>て</sup>いた様子も伺<sup>か</sup>え<sup>え</sup>ました。

そして、大型多尊博<sup>た</sup>仏<sup>そん</sup>という全国でも例の少<sup>た</sup>ない博<sup>た</sup>仏<sup>そん</sup>や金銅製<sup>こんどうせい</sup>飾<sup>かざり</sup>金<sup>か</sup>具<sup>ぐ</sup>など、多彩<sup>た</sup>な遺<sup>い</sup>物<sup>ぶつ</sup>が出土<sup>しゅつ</sup>しており、当時の繁<sup>はん</sup>栄<sup>えい</sup>を示<sup>し</sup>すものと考え<sup>か</sup>え<sup>え</sup>られ<sup>れ</sup>ます。



最新の調査で明らかになった百濟寺跡の伽藍配置



東北院で検出された鑄造遺構(東から)



東南院で出土した金銅製飾金具